

## ■平成30年度後期『学校評価アンケート』より（H31. 1月実施）

\* 考察において「そう思う」「大体そう思う」を合わせて**肯定的回答**と捉えます。  
 また「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせて**否定的回答**と捉えます。

<30年度の具体的な取り組みから>

### 1. いじめを許さない学校づくり

#### ①『いじめゼロ』を目指す

(生徒)	21 「人を大切にしている」 H30 前期 81% (そう思う 34%)	⇒ 96% (そう思う 54%)
	22 「いじめを許さない仲間づくりができる」 H30 前期 70% (そう思う 26%)	⇒ 88% (そう思う 45%)
(保護者)	16 「いじめを許さない仲間づくりができる」 H30 前期 64% (そう思う 4%)	⇒ 41% (そう思う 4%)
(教職員)	7 「いじめを許さない仲間づくりができる」 H30 前期 84% (そう思う 26%)	⇒ 84% (そう思う 21%)

今年度、生徒指導方針において目標として「いじめを許さない学校づくり」を目指した。生徒の「人を大切にしている」「いじめを許さない仲間づくりができる」の2項目において、15%, 18%の大幅な上昇がみられる。

生徒指導部の具体的な指導の目標であった「人のいいところを探し、認め合う仲間集団の育成」が実った結果であるといえる。いじめの対応には早期発見・早期対応に取り組んできたが、日常的に「悪ふざけ」「からかい」が「いじめ」に発展する前の「いじめを許さない仲間づくり」の指導の視点を置き、生徒同士の中で「認め合う」「理解し合う」といった意識の育成を今年度、生徒集団の中で目指すことができたといえる。

#### ②『自己肯定感を高め「不登校ゼロ」を目指す』

(生徒)	18 「自分の良さがわかる」 H30 前期 57% (そう思う 17%)	⇒ 76% (そう思う 30%)
	20 「自分を大切にしている」 H30 前期 70% (そう思う 27%)	⇒ 86% (そう思う 40%)
	25 「笑顔でこれて、笑顔で過ごせて、笑顔で帰れた」 H30 前期 75% (そう思う 27%)	⇒ 88% (そう思う 49%)
★14 「道徳の時間などで、自分の生き方や望ましい言動について学んでいる。」	H30 前期 76% (そう思う 29%)	⇒ 89% (そう思う 43%)

自己肯定感を問う設問においては「自分の良さがわかる」については12%の上昇を示し、「自分を大切にしている」については16%の上昇を示している。「自分の良さ」については他の生徒との人間関係から認識されることが多く、生徒指導部・生徒会で取り組んだ「きぬ言」を始め、生徒集団の中で意図的に自己有用感を高める取り組みが、浸透しその視点で生徒同士が認め合う姿勢ができた結果と言える。集団の中で「人の良さ」を認め合う集団作りが「自分を高める事に終わらず、友達への有用感を高めていった。」と言える。

本校の学校目標である「笑顔でこれて、笑顔で過ごせて、笑顔で帰れた」については、前期で前年度から下降し75%を結果を示したが、喜ばしいことに13%大幅な上昇がみられた。中でも「そう思う」と答えた生徒は前期の27%から全校生徒の半数である49%にまで上昇している。上記1と同じく学校生活の中で生徒同士が「認め合い」「理解し合う」ことからくる自己肯定感を高めることを、教職員全員で年度当初に指導方針を一致させ、1年間取り組んだ結果である。

また、「自己肯定感を高める取り組み」において、教科の視点からは大幅な上昇が見られる項目として、「道徳」についての項目で76%から89%に大きく上昇している。本校でも教科化に向けて、数年前より指導方法や内容について研究・実践し定着した結果が生徒の意識の中に顕在化してきたのではないだろうか。我々の数年間の努力が実った結果となっている。

## 2. 『自ら課題を見つけ学びに向かう生徒を育成する授業づくり』について

(生徒) 9 「授業は学習する目標を持って、意欲的に取り組んでいる」	H30 前期 83% (そう思う 33%) ⇒ 88% (そう思う 37%)
11 「家庭学習をきちんとやっている」 H30 前期 71% (そう思う 29%) ⇒ 75% (そう思う 32%)	
15 「先生たちは教え方を工夫し、分かりやすい授業をしている」	H30 前期 75% (そう思う 27%) ⇒ 86% (そう思う 36%)

学習に対する姿勢は授業においては、5%の上昇（「そう思う」と答えた生徒が上昇）が見られた。本校の数年来の課題であった家庭学習においては、前期より4%上昇している。学校から出される課題に終始することなく、自分の課題探求活動としての学習を、今後高められればいいと考える。

本校での研究部を中心とした今年度の学習指導においての研究は、指導方法・指導形態等の方法論だけでなく、人権教育・育成支援教育の視点から「すべての生徒への、行き届いた指導」を研究してきた。いうなれば指導者としての基本姿勢や指導者としての視点・考え方への改善に取り組んできた。授業における生徒の高評価はその結果と言っても過言ではないだろう。

### <30年度「学校評価アンケート」からうかがえる、本校の「強み」と「弱み」>

#### ◆「強み」として

(生徒) 1 「あいさつやマナーなど、社会のルールを守ろうと心がけている」

H30 前期 98% (そう思う 56%) ⇒ 98% (そう思う 57%)

4 「部活動に参加し、充実した楽しい活動をしている」 H30 前期 82% (そう思う 54%) ⇒ 81% (そう思う 48%)

#### ◇「弱み」として

(生徒) 11 「宿題や予習・復習など、家庭学習をきちんとやっている」 否定 H30 前期 29% ⇒ 25%

18 「自分の良さがわかる」 否定 H30 前期 43% ⇒ 24%

衣笠中の伝統として挨拶ができることがあげられる。生徒同士はもちろんのこと教職員や来校者に対しても、挨拶が習慣化していることは好ましい結果であり、維持していきたいところである。礼儀や作法については、身体的にも精神的にも大きな成長の期待される3年間で上級生が大人としての行動見本を見せることが最も有効であることは言うまでもない。

今年度から部活動の休養日が平日1日と土日のどちらか1日に設定された。活動日の変化から生徒の満足感との関係を考察すると、昨年度「H29 後期 77% (そう思う 49%)」⇒「H30 後期 81% (そう思う 48%)」という集計結果になっている。活動日が減ったものの、満足感は上昇しているということは、多くの生徒にとって休養日の設定は「不満なものにはなっていない。」考察できる。

部活の休養日の増加に伴い家庭学習の充実が期待されるところではあるが、否定意見の若干の減少は見られるが、今一度、部活休養日の過ごし方については学校・家庭で再考の必要があると考えられる。

今年度前期のアンケートで大きな下降を示した「自分の良さ」について、否定的意見の増加が見られたが、今年度の取組で20%の減少を示すようになったことは好ましい結果である。

#### ◆「強み」として

(保護者) 1 「子どもは学校に行くことが楽しいと感じている」 H30 前期 84% ⇒ 75%

#### ◇「弱み」として

4 「子どもは家庭学習をしている」 H30 前期 50% ⇒ 44%

18 「PTA活動や地域の活動に興味を持ち、参加するようにしている」 H30 前期 49% ⇒ 26%

「学校に行くことが楽しいと感じている」と答える生徒を保護者として感じている設問では、9%の下降とは言え依然7割を超えており。他の項目が後期には上昇しているのに対し、保護者の見方は違っているようである。依然として、不調生徒や不登校が本校においても残念ながら見られる。この点においても家庭環境や保護者と生徒にかかわり方などを家庭・学校が連携を保ちながら健全な生活が送れるよう心がけていきたい。

やはり保護者から見ても家庭学習においては6%の下降が見られ部活の休養日の影響もあってか、家庭学習の取り組み方や、家での過ごし方について再考が必要である。

PTA活動・地域の活動については全国的に見ても否定的な意見が大きく存在する。核家族化・地域意識の希薄化など社会の問題がそのままアンケート結果として表れてきているのではないだろうか。しかしながら、子どもたちの育成は学校だけ、もしくは家庭だけで行われるものではなく、我々大人たちが地域社会の一員として共生していることを次の世代を担う子どもたちに教えていかなければならないと考える。